

## 第 32 回横浜港カッターレース出場報告

東京湾水先区水先人会の三級水先人も総勢 23 名となり、以前よりお誘いをいただいていた横浜港カッターレースに、今年いよいよ初参戦しました。

事前練習は 1 回のみでしたが、全員学生時代にカッターを漕いでいるはずなので、オールを合わせることはできるだろうと楽観していました。

しかし、動かないシートに苦戦する元ボート部員、たまたま大柄なメンバーが集まったため、小さな海洋少年団艇で明らかに窮屈そうな漕ぎ、どちらかと言えば瞬発力系の仕事のためか持久力に問題有り、という難点が浮き彫りになり、練習後のレース予想は、回頭したら終わり、というものでした。

そして、今年の目標は『参加することに意義がある。なんとか最下位だけは免れたい』に決まったような…。

レース当日、水先人会で出場を告知していただいたおかげもあり大勢の方が応援に駆け付けてくださり、また、オペレーション、水先艇からも声援をいただき、「ビリにはなれない」という緊張はいやが上にも高まったのでした。

スタート前の姿勢制御を 1, 2 番が上手くこなしてくれ、いいスタートが切れました。ところが、スピードに乗ったかと思った頃、右舷の M/E がオールを流してしまいました。前後が上手く漕いでいたのですぐに復活できると思ったのですが思いのほか手間取り、あと 2 枚で引き上げられなかったら權上げだ、と覚悟を決めたところでようやく復活しました。ほっとする間もなく回頭に入り、やや大回りになってしまったものの無事に回頭終わって、最下位のチームと十分な差があることが確認できたので、あとは流して漕ぐだけだなぁ、と気を抜きかけたその時、左舷艇員が妙に横を気にしていることに気づきました。不審に思ってよく見れば、なんと僅かの差で 2 位につけていたのでした。

僅差の 2 位に気づいていなかったのは艇指揮の私だけだったようで、回頭したら終わり、と言っていた全員が追い越す気合いを見せていました。

しかし、当日は山下公園からの南風で沖は少し波があり、一番沖側のコースだった我がチームは不利。相手チームとは、見てわかる波高の違いがありましたが、逆境を跳ね返す見事な漕ぎでゴール直前に逆転し、思いもかけなかった予選 1 位となりました。

タイムも 2 分 52 秒と、まさかの 3 分切り。大接戦に応援も盛り上がり、普段の仕事では味わうことのない一体感に包まれました。

来年以降も参加し、強豪チームに仲間入りできるよう頑張りたいと思います。

(東船大 MN2 室村理子記)